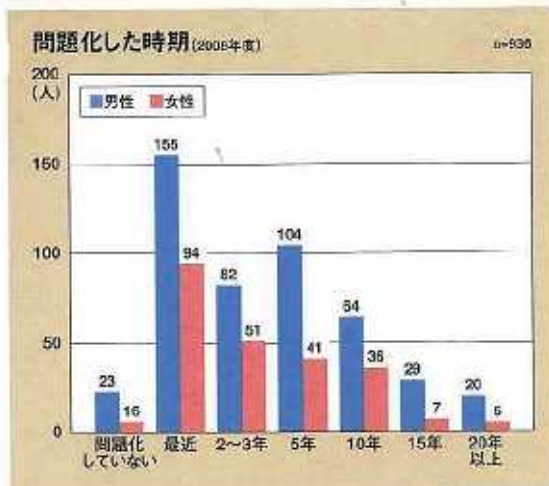
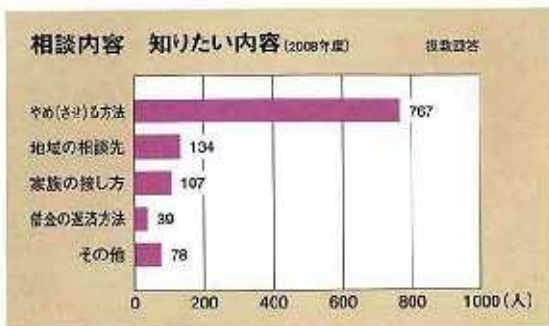


NEWS PICKUP

RSN「2008年度ばちんこ依存問題電話相談事業報告書」

借金返済よりもやめる方法求める



パチンコ依存問題解決の支援を行うリカバリーサポート・ネットワーク(RSN・西村直之代表)が2008年度の電話相談内容の報告書を発表した。それによると、年間の電話相談は全国で1187件(前年度比341件増)だった。電話相談事業を開始した06年度以来、過去最高となった。電話をかけてきた人(相談

者)の内訳を見ると、本人の比率が743件(63%)と圧倒的に多い。本人の比率は06年度が43%、07年度が48%と年々増加傾向にある。その性別は男性、女性でほぼ半々だった。ただし対象者(問題を抱えている本人)の性別では、男性が約7割と過半数を超えた。年代別で見ると、相談者、対象者ともに30代が多く、若

い世代を中心に依存問題が拡がっていると推測できる。

相談内容では、やめる方法、やめさせる方法」が多かった。借金をしながら、その返済方法よりも、パチンコをやめる方法を求めている。

対象者のパチンコ開始年齢は、男性では10代、20代が全体の約9割を占めた。女性では10代、20代で開始したのは約4割にとどまり、男性に比べての年代からでもパチンコを始めている傾向がある。

ではパチンコを始めていつ頃から問題化したのか。男女ともに1、2年以内という回答が最も多く、全体の約3割。10年以上長期的に問題化しているケースも全体の約2割を占めた。RSNでは「問題が長期化するにつれ深刻化する

が、のめり込んで短い期間でも同様に深刻化するケースもある」と分析している。

対象者の9割以上がパチンコ以外のギャンブルはやらないと答えた。この特化性はパチンコ依存の特徴のひとつと考えられる。

対象者の半数以上が借金をしていることもわかった。債務整理しても借金を繰り返している人から、数万円をカードローンでキャッシングしている人まで様々だった。

RSN(リカバリーサポート・ネットワーク) 電話相談は月1金(土日祝祭日除く)、午前10時から午後4時まで。TEL:03-5411-6420

ギャンブル問題の研修会を開催



研修会ではまとめた意見をグループごとに発表  
RSNは5月27日、神奈川県横浜市で「ギャンブル問題初歩編」と題した研修会を行った。フォーラムには援助職員および医療、金融相談関係者、ホール企業など30名ほどが参加。午前の部では、参加者が5名ほどのグループに分かれ、ひとつのケースを題材にして、検討会を行った。その後、「パチンコ依存問題電話相談事業報告書」をテーマに、西村直之代表による講演も行われた。午後の部では、ワンダーボートの中村厚施設長ら3名による講演も行われた。